

大日本史

十九

第三十八卷 本紀
 一條天皇
 第三十九卷 本紀
 三條天皇

史傳載紀

一	一	一	一	和書門類
五〇冊	二架	七五函	二八七二號	

三九函	一五〇架	二八七二號	和
-----	------	-------	---

番號	和 12872
冊數	150(19)
函號	269 26



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak



大日本史卷之

淺草文庫

本紀第三十八

權中納言從三位源光圀 修

男權中納言從三位綱條 校

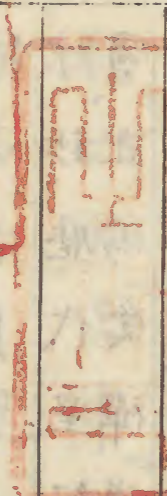
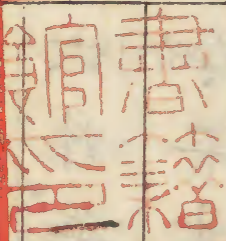
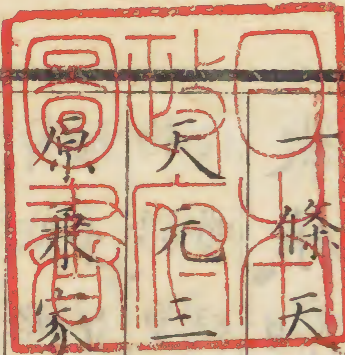
玄孫權中納言從三位治保重 校

條天皇

皇諱懷仁、圓融帝子也、母東三條院

年六月壬申朔、生于外祖右大臣藤

東三條第、八月為親王、日本紀略、帝王編年記、



年代略記、東三條第據、五年十二月著袴、榮華

物語、皇紀、永觀二年八月、華山帝受禪、立為皇

太子、扶桑略記、入居凝華舍、日本紀略、寬和二年

六月、華山帝遜位、傳劔璽於凝華舍、日本紀略、扶桑

略、二十四日辛酉、皇太子受禪、日本紀略、○

鍊鈔、歷代皇紀等書、係二十三日、蓋以傳劔

璽、直為受禪踐阼、紀略、二十三日、條曰、翌日

行讓位禮、今從之、大鏡、以右大臣藤原兼家

攝政、太政大臣賴忠、左大臣源雅信、權大納言兼右

言兼左近衛大將藤原朝光、權大納言兼右

近衛大將藤原濟時、並如故、公卿補任、秋七月五

日辛未、尊皇太后曰太皇太后、所生女御藤

原氏曰皇太后、日本紀略、大赦天下、賜僧尼

物、六日壬申、地震、日本紀略、十六日壬午、立華山

帝弟居貞親王為皇太子、扶桑略記、日本紀

部類記、引左大臣源雅信為傅、二十日丙戌、

攝政兼家罷右大臣、以大納言藤原為光為

右大臣、公卿補任、二十二日戊子、天皇即位于大

極殿、時年七歲、日本紀略、大鏡裏、是日華山

法皇幸播磨書寫山扶桑略記二十五日辛

卯詔減服御常膳八月八日甲辰卜定恭子

女王為齋宮二十七日癸亥敕太宰府召還

在宋僧齋然○扶桑略記九月五日庚午發

大奉幣使冬十月二十三日戊午御禊二十

五日庚申遣使宇佐二十六日辛酉省試十

一月乙丑朔奉幣伊勢石清水賀茂日本紀略十

日甲戌春日社鳴動終夜有光三日日本紀略扶桑

據略記三日十五日己卯大嘗一代要記帝二

十一日乙酉復梅宮祭祭廢置非一據三代

實錄元慶三年廢之八年復之年中行事曰

寬平中又廢而未知其年故不書字多

紀而載此未二月八日壬寅始讀書大鏡十七

日辛亥始修吉田祭行中二十日甲寅觀法

皇于圓融院日本紀略二十一日壬午南

永延元年丁亥春正月二日乙丑觀皇太后

于東三條院榮華物語癸巳晦申禁私帶兵仗日本

略紀二月十七日甲辰僧齋然還自宋日本紀略百鍊

鈔帝王編年記○扶十六日己酉遷自凝華

舍御清涼殿三月四日丙寅定新制十三條

日本紀略夏四月五日丁酉改元日本紀略

歷代皇紀皇代記皇代略日百廿五日甲

辰盜入主稅寮文殿扶桑略五月五日丙寅定

新制五條扶桑略二十一日壬午祈雨賀

茂丹生貴布禰修法宮中二十四日乙酉讀

經大極殿三日日本紀略修請雨經法於神泉苑

日本紀略二十九日庚寅詔減服御常膳權

停馬寮秣穀日本紀略太赦天下賑高年蠲逋負

日本紀略六月壬辰朔決神泉苑池溉民田

三日甲午大雨日本紀略二十九日庚申攝政兼

家與公卿詣賀茂奉競馬賽之秋七月二十

八日己丑以亢旱詔公卿上封事日本紀略

庚寅晦大風拔木發屋八月二十一日辛亥

奉幣伊勢己下廿八社日本紀略九月七日丁卯

伊勢神人奉梓神木詣陽明門訴國司清邦

百鍊鈔二十六日丙戌一品中務卿兼明

親王薨日本紀略扶桑略記二十五日二十七日丁

亥納佛舍利於京畿七道神社日本紀略冬十月

十四日癸卯行幸攝政兼家第賦詩奏樂試

擬文章生日本紀略扶桑略記二十六日乙

卯法皇幸南京諸寺日本紀略扶桑略記十一月三日

辛酉使檢非違使廉察不用錢貨者日本紀略扶桑

略記百八日丁卯天皇與皇太后同輿謁石

清水宮日本紀略華物語為三月十七日丙子兵庫火

略記百鍊鈔十二月十二日庚子奉幣伊

勢石清水賀茂松尾平野春日大原野告與

庫火日本紀略廿五日癸卯天皇與皇太后行幸

賀茂社日本紀略扶桑略記十日甲辰奉幣十九社

紀略本廿八日丙辰以兵庫火大赦天下免

徭半給高年穀日本紀略扶桑略記

二年戊子春正月辛酉觀法皇于圓融

院榮華語三月二十日丁丑法皇慶圓融寺塔

扶桑略記夏五月廿日丙寅大和添其郡橋

山自移西南與町許新鍊廿四庚辰修

臨時伴主會日本紀略廿月二日丁巳禁僧徒從

日本書紀 卷三十一 三

者踰制著奇服挾短兵朝野十三其戊辰諸

陣戒嚴索盜藤原保輔捕獲下獄秋七月

十八日壬子禁奢僭九月五日庚寅焚惑犯

太微右上將冬十月十二日丙寅四品兵部

卿永乘親王薨○扶桑略廿六月七日庚

寅行幸攝政兼家第○扶桑略廿六月七日庚

宋祚元年己丑春三月六日丁巳廷議尾張

百姓訴守藤原元命虐政○扶桑略廿六月七日庚

丙內藏寮權曹司災○扶桑略廿六月七日庚

違豫修法延曆寺○扶桑略廿六月七日庚

融院○扶桑略廿六月七日庚

戊以權大納言藤原道隆為內大臣○扶桑略廿六月七日庚

任略三月二十日癸卯行幸春日社○扶桑略廿六月七日庚

紀略春日行幸始于此○扶桑略廿六月七日庚

日甲辰還宮○扶桑略廿六月七日庚

右獄繫囚○扶桑略廿六月七日庚

月不滅○扶桑略廿六月七日庚

十一社○扶桑略廿六月七日庚

十九日戊辰賀茂社大木自僵

中有物如星無數南飛小右記日本紀略百鍊鈔二十四

日癸酉以皇太后疾詔大赦天下常赦所不

免者咸赦除日本紀略賑廢疾日本紀略二十五

日甲戌卜占賀茂社怪小右記大納言藤原朝

光罷左近衛大將日本紀略○公卿二十六

日乙亥太政大臣賴忠薨小右記日本紀略補是

月癘疫流行小右記秋七月十三日辛卯内大

臣藤原道隆兼左近衛大將公卿補任八月

三日辛亥三日並見合而為一百鍊鈔八百丙

辰改元給老人僧尼穀日本紀略十三日辛酉京

師諸國大風宮城殿門社寺多壞洪水海溢

漂沒田宅人畜死傷日本紀略扶桑十四日

壬戌課諸國修造殿門日本紀略十七日乙丑奉

幣伊勢以下諸社日本紀略九月七日乙酉

奉幣伊勢石清水賀茂松尾平野稻荷等社

二十三日辛丑修百座仁王會於大極殿日本

略紀二十九日丁未以僧餘慶為延曆寺座主

日本紀略扶桑略記僧徒不奉命拒敕使壞

日本紀略扶桑略記僧徒不奉命拒敕使壞

宣命日本紀略冬十月五日庚戌敕賜前延

曆寺座主尋禪封百戶丁丑晦遣使延曆寺

宥僧徒罪十一月二十三日庚子大原野祭

攝政兼家後騎私鬪傷官人不畢禮而罷二

十六日癸卯日本紀略軒廊日本紀略十月二十日

丁卯以兼家為太政大臣攝政如故日本紀略公卿

補正曆元年庚寅春正月五日壬午天皇加元

服日本紀略扶桑略扶桑略記七月甲申詔大赦天

下常赦所不免者咸赦除賜爵蠲逋負賜老

人物日本紀略十一日戊子觀法皇示圓融院日本紀略

鈔日本紀略扶桑略扶桑略記百鍊二月三日戊申西寺火

治日本紀略二年○扶桑略扶桑略記百鍊西大寺槐日本紀略十一日

丁巳以藤原定子為女御日本紀略夏五月

五日己卯攝政太政大臣兼家罷詔為關白

公卿補任愚管鈔一代代要記百鍊鈔八相王

帝王編年記○日本紀略係四日鈔八相王

午關白兼家罷以內大臣藤原道隆為關白

代日本紀略公卿補任不十年丙戌以兼家

日本紀略公卿補任不十年丙戌以兼家

疾大赦天下常赦所不免者咸赦除免調庸

加賑給日本紀略二十六日庚子以關白道隆攝

政六月甲辰朔攝政道隆罷左近衛大將公

五卿補任係右近衛大將藤原濟時轉左近衛

大將權大納言藤原道兼兼右近衛大將日本紀略

要紀略公卿補任一代二十八日辛未天皇不

豫日本紀略秋七月二日乙亥前關白兼家

薨日本紀略八月五日甲辰異禽集紫

宸殿獲之狀如水乞鳥日本紀略並日戊申

帝疾瘳日本紀略十二日甲寅雨雹外記二十二

日甲子奉幣伊勢已下諸社日本紀略祈年

穀禳災異日本紀略二十八日庚午大風洪水九

月九日辛巳停重陽節十七日巳丑祈晴丹

生貴布禰日本紀略二十三日甲午三品彈

正尹章明親王薨日本紀略三十日一代冬未月

五日丁未立女御藤原定子為中宮日本紀略

日記扶桑略記一代要記帝王編二十五日

丁卯地震日本紀略十一月七日戊寅改元

日本紀略外記 日記 扶桑略 大赦天下賜老

人僧尼穀日本紀略奉幣諸社外記十六日丁亥

復阿波租一年日本紀略中日

二年辛卯春二月十二日癸丑法皇不豫大

赦天下常赦所不免者皆赦除日本紀略是日法

皇崩日本紀略扶桑略記 榮華物語 ○按榮

于始附此十九日庚申葬圓融天皇日本紀略夏

四月二日辛未太皇太后三條宮火日本紀略百鍊

鈔二十五日甲午祈雨丹生貴布禰六月三

日庚午修請雨經法於神泉苑二七日十三

日庚辰又奉幣丹生貴布禰使七大寺僧六

百轉讀大般若經于東大寺十四日辛巳雩

十八日乙酉讀經龍穴二十二日己丑決神

泉苑池灌紀伊葛野二郡二十四日辛卯奉

幣伊勢已下十九社二十七日甲午使百僧

轉讀大般若經於大極殿秋七月二十三日

庚申攝政道隆罷内大臣日本紀略○公卿

補任愚管鈔係二

十四日大鏡裏書一代要自六月至是月不

記歷代皇紀二十一日

雨日本紀略八月霖雨日本紀略九月七日癸卯

以右大臣藤原為光為太政大臣大納言源

重信為右大臣權大納言藤原道兼為內大

臣日本紀略公卿補任權記八日甲辰有龜入左兵衛陣

十日丙午尾張獻白雉日本紀略十六日壬子行

幸職曹司問皇太后疾日本紀略是日皇太

后剃髮上號曰東三條院日本紀略扶桑略

三年壬辰春正月諒闇停諸節會日本紀略四

日己亥太白經天權記二月二十七日辛卯奉

幣諸社日本紀略夏四月二十七日庚寅觀東三

條院于權大納言藤原道長上東門第日本紀略

月癸亥朔洪水二日甲子大雨洪水日本紀略十

六日戊寅太政大臣為光薨日本紀略公卿補任權記秋

七月二十一日壬子奉幣諸社冬十月二十

六日丙戌觀舞樂於清涼殿十一月四日癸

巳盜入齋院五日甲午遣使奉幣伊勢已不

大日本紀 卷三十一 本紀

諸社九日戊戌卜齋院盜二十六日乙卯奉

幣賀茂謝盜入齋院己未晦從五位下源忠

良討阿波海賊俘獲頗多十二月八日丁卯

遣使奉幣伊勢己下諸社日本紀略十四日癸酉

行幸平野社日本紀略權記日本紀略

四年癸巳春正月三日壬辰觀東三條院日本

紀略夏四月二十二日庚辰攝政道隆為關

白日本紀略百鍊日本紀略五月七日甲午奉幣伊勢

石清水賀茂平野稻荷北野日本紀略二十日丁

未詔遣使太宰府贈故右大臣菅原道真左

大臣正一位日本紀略大鏡裏書遣使太宰

府六月二十五日按古事談北野緣起六月十

六日癸酉始視內文及官奏二十日丁丑轉

讀大般若經於清涼殿五日以禳疾疫自五

月至是月咳逆流行日本紀略秋七月二十日丙

午震美福門災日本紀略二十六日壬午左

大臣兼皇太子傳源雅信罷公卿補任十一代

二十七日癸丑相撲召合以雅信疾徹樂日本



紀略外記、乙卯晦、前左大臣源雅信薨、日本紀略、公卿

補任外記、日記、權記、八月丙辰朔、日有食之、日本紀略、外記、日記

十一日丙寅、以三合厄、及炮瘡流行、詔赦大

辟以下罪、免調庸、減徭半、日本紀略、二十日丙

子、大袞紫宸殿建禮門朱雀門、日本紀略、外記、日記

閏十月二十日甲辰、遣使太宰府、再贈菅原

道真太政大臣、日本紀略、外記、日記、大鏡裏

宰府據帝王編年記、起一說、及古事談、為明年事、誤、十一月甲

寅朔、日南至、公卿表賀、日本紀略、外記、日事、十五

日戊辰、詔曰、陰陽不測、宰之者明王、寒暑無

愆、司之者哲后、故軒皇御曆、雙離之璧合光、

漢徹乘時、五緯之珠連綵、朕嗣守昌基、丕承

鴻業、七政未能在璿璣之數、四時唯恐失玉

燭之和、迺者有司奏言、今年十一月朔旦冬

至、履端於始、舉正於中、朕之素虛、雖鍾文質

之澆季、天之玄應、苟遇章首之嘉期、斯乃宗

祧、祐福之効、臣佐燮理之功、已有舊典、何違

新休、其赦天下、但常赦所不免者、及欠負官

會日本紀略廿三日甲子、停著欽政西宮記二十日

辛未、奉幣諸社、二十六日丁丑、大赦、敕諸司、

每戶建石塔、以禳疾疫、六月十三日己巳、祈

雨丹生貴布禰、廿六日丙申、以京師訛言、公

卿至庶人、閉門不出、道路行絕日本紀略、二

十七日丁未、修御靈會于船岡上日本紀略、朝野羣載、

秋七月二十日庚午、天風、二十二日壬申、賑

京師民、八月十日己丑、使二百僧轉讀大般

若經於大極殿、二十一日庚子、奉幣諸社、禳

災異疾疫日本紀略二十八日丁未、以右大臣源

重信為左大臣、內大臣藤原道兼為右大臣、

權大納言藤原伊周為內大臣日本紀略、九

月七日丙辰、左大臣源重信兼皇太子傅公卿、

補任八月丁巳、有虹見外記廳版位、外之、冬十

月二十四日壬寅、地震、水災、十二月戊寅

朔、日有食之、十七日甲午、遣使奉幣伊勢也

下諸社日本紀略是歲五月、疾疫起於鎮西、彌禮

天下日本紀略、扶桑自夏至秋轉熾、僵死盈

路鈔百鍊

長德元年己未春正月己酉觀東三條

院九日丙辰鴨院火太土皇徙御東三條第

二月九日乙酉修仁王會以禳疫日本紀略五

二日戊戌改元日本紀略扶桑略記帝王編

詔大赦天下太辟以下悉赦除免調庸日本紀略

夏四月三日己卯關白道隆罷公卿補任十日丙

戌前關白道隆薨日本紀略百鍊鈔孫十

榮華物語十八日甲午雨雹大如粟日本紀略二

十三日己亥大納言兼左近衛大將藤原濟

時薨公卿補任二十七日癸卯以右大臣藤原道

兼為關白權大納言藤原道長兼左近衛大

將日本紀略關白補任大鏡裏書按敕諸

國寫大般若經畫觀音像以禳疫日本紀略五月

八日癸丑關白右大臣道兼左大臣兼皇太

子傳源重信薨日本紀略丙辰敕權大納言藤

原道長內覽太政官文書日本紀略公卿補

書二十六日辛未轉讀大般若經于十三間



三日日本紀略六月未地日果兼、改權太納言藤

原道長為右大臣日本紀略公卿補任日本紀略二十九日

十一日丙申、大納言藤原顯光兼右近衛太

將日本紀略代要記日本紀略公卿補任日本紀略二十九日

右近衛府廳東西倉火日本紀略是夏疫氣盛行

日本紀略扶桑略記日本書紀百鍊鈔日本紀略帝王編年記

不取、秋七月二十三日丁卯、免諸國貢賦四

分之一日本紀略八月二十日乙未、奉幣諸社

日本書紀百鍊鈔略日本紀略二十日乙未、內大臣藤原伊周

兼皇太子傳公卿補任冬十月十五日戊子、大雨

雷、二十日甲午、謁石清水宮、二十二日乙

未、還宮、十一月二十五日丁卯、卜雷、二十八

日庚午、省試、十二月八日庚辰、遣使奉幣諸

社日本紀略社略日本紀略二十日乙未、

二年丙申、春正月壬寅朔、以物忌不御殿、五

日丙午、觀東三條院、二月八日己卯、大原野

祭、社樹僵牛馬死、三月二十日戊辰、以東

三條院不豫、大赦天下、夏四月三日壬申、地

震日本紀略二十四月甲午、貶内大臣藤原伊周

為太宰權帥、權中納言藤原隆家為出雲權

守日本紀略扶桑其弟賴親周賴及黨與抵

罪古事談諸陣戒嚴日本紀略五月五日甲辰安置

伊周于播磨隆家于但馬古事談二十日己未

解嚴二十七日丙寅使百僧讀經紫宸清涼

本殿六月二十五日甲午省試二十六日乙

未地大震二十七日丙申雨雹日本紀略秋七月

二十日戊午以右大臣藤原道長為左大臣

大納言藤原顯光為右大臣日本紀略二十

八年丙寅相撲召合以饑饉徹樂閏月九日

丁丑奉幣伊勢以下諸社十日戊寅鴨河溢

損民屋二十日己丑大風壞廬舍二十四

日壬辰奉幣石清水賀茂大神貴布禰日本紀略

八月九日丁未以藤原義子為女御日本紀略

左大臣藤原道長罷左近衛大將公卿補代

要記九月八日乙亥日本紀略推于支訂之大納言

藤原公季兼左近衛大將日本紀略是月藤

原伊周逃還押送太宰府日本紀略記百鍊鈔○扶桑

談係冬十一月六日壬申北野社火日本紀略百鍊鈔

鈔十二月無日戊戌以藤原元子為女御日本紀

略紀二十七日癸亥右大臣藤原顯光罷右近

衛大將公卿補任○代乙丑晦中納言藤

原道綱兼右近衛大將日本紀略是歲米價

騰貴至冬京師屢火日本紀略○又京師西

三年丁酉春正月今日丁卯觀東三條院是

月至二月京師屢火三月十五日己卯以東

三條院違豫奉幣二十社日本紀略平末五拜也

丑大赦天下常赦所不免者咸赦除日本紀略百鍊鈔

鈔夏四月五日己亥召還藤原伊周藤原隆

家扶桑略記百鍊鈔○公卿補任大鏡裏書

以隆家係本二十一日己卯遣參議源俊明

於伊勢奉幣大神宮遣使奉幣石清水賀茂

平野春日伊勢公卿五月甲子朔日有食之

二十一日乙酉地大震日本紀略六月十三日丙

午高麗獻書廷議不報嚴警邊備百鍊鈔辛廿

二日甲寅、觀東三條院、二十三日乙卯、奉幣

丹生貴布禰、春夏之交、京師多盜、日本紀略秋七

月五日丁卯、以大納言藤原公季為內大臣、

公卿補任壬辰晦、相撲召合、以東三條院疾

徹樂、日本紀略冬十月壬辰朔、太宰府驛言、高麗

劫掠邊陲、日本紀略百鍊鈔、○日本紀略高麗作

十三日甲辰、遣使奉幣諸社禱之、日本紀略

日癸亥、太宰府言、獲高麗賊三十餘人、日本紀略

四年戊戌、春正月二十一日壬午、慶圓教寺、

日本紀略、扶桑略記、百鍊鈔、仁和尚寺諸堂記、

○日本紀略曰、天皇行幸、百鍊鈔曰、無行幸、未知

是孰、二十六日丙戌、彗星見東方、一代夏四月

十日戊戌、卜神祇官及齋院舍火、十五日癸

卯、大祓建禮門、五月四日辛酉、奉幣伊勢以

下諸社、六月三日庚寅、卜犬吠御座、日本紀略秋

七月二日戊午、以東三條院違豫、大赦天下、

二十日丙子、天皇患疱瘡、大赦天下、常赦所

不免者、咸赦除、日本紀略、患疱瘡、據八月二

十日丙午、大風、武德殿御書所倒、九月十四

日本書紀卷之七

日庚午、太宰府上言、貴駕島人捕獲高麗賊、

冬十月丙戌朔、日有食之、三日戊子、地大震、

十一月十六日辛未、奉幣丹生、貴布禰、廿二

月二日丁亥、盜入宣耀殿、日本紀略○百是

歲自夏至冬、天下患赤斑瘡、夏秋之交殊甚、

京師男女多死、日本紀略扶桑略記

長保元年己亥、春正月十三日丁卯、改元、日本

紀略扶桑略記、百鍊鈔、大赦、二十七日辛巳、大膳進藤

原中遠獻白雀、三月七日庚申、太宰府獻豐

前雨米、廿六日己巳、觀東三條院、日本紀略外記

夏五月五日丙戌、復丹波播磨讚岐、九日庚

寅、觀陸奧交易馬、外記六月十四日乙丑、禁

中火、日本紀略扶桑、天皇避之、太政官十六

日、卯、徙御六條大宮院、二十七日戊寅、外

火、廿八日己卯、奉幣伊勢以下九社、日本紀略

外記秋七月廿五日辛卯、太宰府言、產並頭

蓮、日本紀略百鍊鈔、二十三日癸卯、遣使栢原後邑

上陵告火、小右是月停相撲節、日本紀略八月木

日本書紀卷之七

日庚申、奉幣二十五社、小右記十九相己巳、太

宰府信、擊高麗賊却之、日本略九月八日、丙亥、

佐大臣直廬有童子屍、小右記冬、未、月、未、日、

己酉、以藤原彰子為女御、日本紀略大鏡裏

代要記、未、二月庚戌朔、太皇太后崩、鈔百鍊

為七、榮華物語、五日甲寅、葬三條太皇太后、日本

紀略、扶桑略、十三、相、壬戌、頒新制十一條、日本

略、二十七日丙子、先是散位平致賴與前、

野守平維衡、構兵而戰、藤原致忠殺前相、

守橋輔政子、物今昔是日流致賴於隱岐、徙維

衡於淡路、流致忠於佐渡、日本紀略

二年庚子、春正月、以國哀停諸節會、九日丁

亥、大雪、日本紀略二月二十三日辛未、日薄蝕、

權記、二十五日癸酉、尊圓融皇后曰皇太后、大鏡

裏改中宮曰皇后、立女御藤原彰子為中宮、

日本紀略權記、大鏡裏書、○扶桑略、記為五

日、公卿補任以立中宮為二十七、日、榮華物

語、為三月三月戊寅朔、日有食之、權夏四月

七日甲寅、震招俊堂災、日本紀略百鍊鈔、扶十

日本書紀 卷之八 三十一

七日甲子、以皇子敦康為親王、日本紀略、二十

三日庚午、卜災、日本紀略、五月三日己卯、紫雲見

于北野社池、百鍊鈔、四日庚辰、祈雨、丹生貴布

禰、六日壬午、以災奉幣二十六社、日本紀略、八日

甲申、大和言、興福寺僧擾添下郡、敕令興福

寺別當禁僧徒濫行、權記、十八日甲午、以東三

條院違豫、大赦天下、日本紀略、六月十六日辛

酉、卜大神社鳴、日本紀略、二十二日丁卯、祈

雨、丹生貴布禰、權記、丙寅、大雨、今不取、秋

七月三日戊寅、減造宮諸國徭之半、廿三日

戊子、以大神社鳴、奉幣二十六社、八月十六

日庚申、太水、日本紀略、鴨河溢、壞京極、以西人家

二十日甲子、以藤原尊子為女御、日本紀略、權記

一代、二十三日丁卯、奉幣馬丹生貴布禰、祈

晴、權記、冬十月十一日甲寅、宮成、徒御焉、日本紀略

百鍊鈔、○扶桑、二十七日庚午、奉幣伊勢、以

下八社、日本紀略、十二月十六日、皇后崩、二

十七日庚午、葬藤原皇后、日本紀略、大鏡裏書、是冬、疾

疫起自鎮西、流及京師、日本紀略百鍊

三年辛丑、春正月、以國哀、停諸節會、日本紀略九

日、梓、祀、東、大、特、大、佛、像、遍、身、水、出、日本紀略

書、西宮記、裏書、一記、五月、辛、丑、祈、雨、丹

生、貴、布、禰、日本紀略、三、明、年、辛、丑、以、疾、疫、修、百

座、仁、主、會、於、太、極、殿、天、皇、臨、焉、日本紀略

廿、八、日、庚、子、使、持、僧、讀、壽、命、經、於、大、極、殿、日本

禮、門、采、雀、門、日本紀略、五月、九、日、庚、辰、祭、疫、神、

紫、野、建、祠、號、今、宮、日本紀略、野、羣、載、○、公、事、根、源、係、二、朝

年、庚、子、晦、轉、讀、大、般、若、經、於、十、二、門、禳、疫、日本

略、紀、秋、七、月、十、三、日、壬、午、大、納、言、藤、原、道、綱、罷

右、近、衛、大、將、補、公、卿、任、是、月、遣、參、議、源、俊、賢、于、伊

勢、奉、幣、大、神、宮、伊、勢、公、卿、自、春、至、是、月、天、下

大、疫、死、者、相、繼、日本紀略、扶、桑、八、月、二、十、五

日、甲、子、權、大、納、言、藤、原、實、資、兼、右、近、衛、大、將、

公、卿、補、任、一、代、冬、十、月、三、日、庚、子、賑、給、京、師、

要、記、歷、代、皇、紀、冬、十、月、三、日、庚、子、賑、給、京、師、

紀、日本紀略、九、日、丙、午、行、幸、上、東、門、第、賀、東、三、條、院

大、納、言、藤、原、實、資、兼、右、近、衛、大、將、

大、納、言、藤、原、實、資、兼、右、近、衛、大、將、

壽四十日本紀略扶桑略記百鍊鈔十一月十八日乙酉

禁內火、天皇避之職曹司日本紀略權鈔十九

日丙戌、停大原野園韓神等祭日本紀略二十二

日己丑、遷御一條院日本紀略權鈔二十五日

壬辰、敕造內裏、限以明年秋冬、是日停新嘗

會權鈔禁公卿宮女著美服百鍊鈔十二月二十

七日甲子、奉幣伊勢以下七社、右衛門府獻

白雉日本紀略閏月三日庚午、修仁王會、十五日

壬午、以東三條院違豫、大赦天下、常赦所不

免者、咸赦除、十六日癸未、觀東三條院日本紀略

權鈔二十一日己丑、東三條院崩、二十四日辛

卯、葬東三條院日本紀略權鈔

四年壬寅、春正月、以諒闇、停諸節會、七日癸

卯、除服、三月十一日丁未、雷風雨雹日本紀略○扶

桑略夏五月七日壬寅、始修最勝講於清

涼殿江談鈔年中行事、清涼殿據公六月七

日辛未、奉幣二十一社、禳天變祈雨日本紀略十

三日丁丑、為尊親王薨日本紀略一代要十

大日本史 卷三十一 本紀 三十一

九日癸未、敕造宮制度、務從儉樸。百鍊秋七

月甲午朔、日有食之。日本紀略權五日戊戌、

有大流星。扶桑略記八月甲子朔、祈晴丹生貴布

禰、九月癸丑日戊戌、日月薄蝕、是夜有流星達

旦。○日本紀略七月扶桑略記、七月己亥、夜半星流、至寅

時而止、癸日庚子、以天變大赦天下、左遷解

官者復本官。日本紀略二十一日癸丑、東大寺大

佛像及鐘、沾濕如出水、二十六日戊午、奉幣

二十一社。日本紀略冬十月壬戌朔、占東大

寺怪異。日本紀略西宮記、六日丁卯、使百僧

修仁王會於大極殿。日本紀略十四日乙亥、右兵

衛府火。日本紀略百鍊、十二月、始置內侍所

神樂。一代要記間歲舉之。年中行事、公事根源

五年癸卯、春三月四日甲午、謁石清水宮。日本紀略

太白晝見。日本紀略五日乙未、還宮、七日

丁酉、奉幣大神宮。日本紀略二十六日丙辰、行

幸賀茂社。日本紀略權、夏五月十九日戊申、

京師大水。日本紀略秋八月戊午朔、日有食

大日本史 卷三十一 本紀 三十六

之日本紀略冬十月八日甲子宮成徙御焉日本紀略

扶桑略記百鍊帝王編年記十一月十三日己亥大風雷

雨扶桑略記十二月四日己未遣使宇佐

七日壬戌卜宇佐石清水怪異於軒廊十二

日丁卯奉幣二十一社日本紀略是歲大有年日本

紀略百鍊寬弘元年甲辰春二月二十六日庚辰住吉

神人五十餘人詣闕訴為攝津守藤原說孝

所毆傷日本紀略按說孝本書三月二十四

日戊申宇佐宮命婦神人五百餘人守闕訴

太宰權帥平惟仲封閉神宮日本紀略五百

扶桑略記係夏四月十七日庚午卜鹿出

大藏省入右衛門陣于軒廊五月四日丁亥

以法皇皇子清仁昭登為親王按榮華物語為三年事

誤秋七月二日甲申祈雨八日庚寅讀經龍

穴十二日甲午讀經二十一社及七大寺日本

日本紀略二十日壬寅改元日本紀略扶桑略記權

日誤大赦使二百僧讀經大極殿及七大

日誤大赦使二百僧讀經大極殿及七大

日誤大赦使二百僧讀經大極殿及七大

日誤大赦使二百僧讀經大極殿及七大

寺二十四日丙午祈雨八月二日甲寅卜旱

于軒廊四日丙辰奉幣丹生貴布禰六日戊

午令百僧讀仁王經於大極殿五日十六日

戊辰奉幣七社及宇佐日本紀略一〇七社冬

十月十四日甲午行幸松尾社日本紀略帝

二十一日辛丑行幸平野北野二社日本紀

鈔松尾北野行幸始于此濫觴鈔要記十二月

庚辰朔日有食之十五日甲午修仁王百講

于大極殿日本紀略權記二十八日丁未以宇佐宮

司訴罷平惟仲太宰權帥日本紀略公卿

二年乙巳春二月八日丙戌大歌所大藏省

西倉災日本紀略法成寺攝政記二十五

日癸卯修百座仁王會於大極殿日本紀略

政成寺攝政記以從二位藤原伊周班大臣下納言

上日本紀略公卿補任扶桑略記二十八日

丙午盜殺大藏大輔平孝信日本紀略夏四月三

日庚辰大風雷雨日本紀略法成寺攝政記二十六日癸

卯以天變怪異敕免左右獄重囚小右記五月

二十三日庚午震大炊寮廳日本紀略二十

六日癸酉祈年二十一日日本紀略秋七月十日

丙辰親試學生於弓場殿法成寺攝政以中

第者直御書所日本紀略八月八日甲申

祈晴丹生貴布禰日本紀略十三日己丑

東大寺鷲狐相鬪大佛殿晝昏佛像汗出日本

略紀十四日庚寅講最勝王經小右記百鍊鈔

係日本紀略二十一日丁酉使百僧修仁王會

於大極殿日本紀略九月九日甲寅以天變

怪異停重陽節賜菊酒於宜陽殿小右十六

相辛酉卜東大寺怪異宮日本紀略西冬十月

四日己卯以東大寺怪異奉幣二十一日東

錄寺要十三日戊子有鳥入朝餉凡帳過晝御

座而去小右二十一日丁酉慶新寫大般若

經于清涼殿日本紀略廿一月二日丙午

大雷雨日本紀略廿一日日本紀略廿三日丁

丑日本紀略廿三日日本紀略廿三日丁

巳以藤原伊周參預朝政小右記百鍊鈔公

日本紀略 卷之六 神鏡大

十五日己未禁内政日本紀略扶桑神鏡大

刃契焚法成寺攝政記百鍊鈔美皇避之神嘉殿法

成寺攝政記遷職曹同遂御太政官朝所日本

政紀略法成寺攝十六日庚申奉置神鏡於職

曹同諸衛護之法成寺攝政記二十日己丑停五

節舞姬日本紀略二十日丙寅占火災日本紀略

二十七日辛未遷御左大臣藤原道長東三

條第日本紀略扶桑略記法成寺是月以火及

穢停吉田大原野祭賀茂臨時祭日本紀略十二

月九日癸未奉移神鏡於東三條第法成寺攝政記

日本紀略十日甲申遣參議藤

原行成於伊勢奉宸筆宣命於大神宮告神

鏡罹災日本紀略伊勢宸筆宣命始于此古今

著聞自夏至冬天變數見神社佛寺多怪異

日本紀略三年丙午春二月二日乙亥地震十七日庚

寅營宮殿日本紀略法三月四日丙午宴于

東三條第日本紀略百鍊鈔奏樂賦詩法成寺攝

日本紀略攝政記

日本紀略 卷之六 神鏡大

政記 是日遷御一條院日本紀略十四日丙辰

上皇徙自三條宮御冷泉南院日本紀略夏四月

客星見南方明月記寬喜二年三月○一代要記

戊子五月二日癸卯修仁王百講於大極殿日本

略紀 十日辛亥讀經大内不斷聲法成寺攝政記秋七

月三日癸卯召公卿議改鑄神鏡有蛇上殿

走向神鏡所在乃寢其議法成寺攝政記日

十三日癸丑大和守源賴親劾興福寺僧不

法僧二千餘入京訴之左大臣藤原道長諭

還之十九日己未卜客星於軒廊八月十九

日己丑奉幣二十一社二十六日丙申免輕

囚法成寺攝政記九月四日癸卯祈雨丹生貴布禰

日略本 二十二日辛酉行幸藤原道長第觀競

馬皇太子從焉日本紀略法成寺攝政記百鍊鈔 二十七日

丙寅盜入鴨院權記冬十月五日甲戌冷泉院

火日本紀略法成寺十一日庚辰山鷄入殿

日本紀略法成寺 十一月二十六日乙丑省試日本

略紀 平下末春五月二十八日丙寅大内言

大日本紀 卷三十八 本紀 三十一

州
紀
三十一

四年丁未春正月二十八日丙寅大納言藤

原道綱兼皇太子傳補公卿二月八日乙亥省

試夏六月四日戊戌流星北行紀日本八日壬

寅是夜流星向曙不止九日癸卯有大流星

法成寺攝政記十六日庚戌以星變大赦天下常赦

所不免者咸赦除賜老人穀日本紀二十一

日乙卯奉幣二十一社二十六日庚申祈雨

丹生貴布禰秋七月乙丑朔筑前火藏滿

高殺大隅守菅野重忠於太宰府日本紀三日

丁卯祈雨丹生貴布禰權十四日戊寅修仁

王會禳星變八月十九日壬子祈晴丹生貴

布禰日本紀冬十月二日乙未三品太宰帥敦

道親王薨日本紀略法成寺攝政權十二

月二十一日癸丑地震日本紀略法成寺攝政權

五年戊申春正月十六日戊寅以藤原伊周

准大臣賜封一千戶日本紀略公卿補任戶

二月八日己亥法皇崩日本紀略榮華物語大鏡

裏書鈔為九日百鍊十七日戊申葬華山天皇日本紀

本紀
三十一

法成寺攝政記、秋七月、以疾病災異、停相撲節、日本略

八月四日壬辰、祈晴丹生貴布禰、法成寺攝政記

日丙申、卜霖于軒廊、日本略、冬十月十六日癸

卯、行幸上東門第、法成寺攝政略、以皇子敦成

為親王、日本略、十二月五日辛卯、冷泉南院成、

上皇徙御焉、日本略、十二年

六年己酉、春二月五日辛卯、日本略、僧圓

能咒詛事發覺、捕訊鞠之、日本略、二十日

丙午、圓能及其黨與、處罪有差、日本略、停藤原

伊周朝參、日本略、三月二十二日丁丑、雨

電、日本略、夏六月十九日壬寅、聽伊周朝、公卿補任

大鏡裏書、日本略、係、秋七月二十八日

辛巳、二品中務卿具平親王薨、冬十月四日

乙酉、雷、日本略、五日丙戌、十條院火、延喜天曆

御記、累朝寶器多焚、天皇避之、織部司十九

日庚子、徙御左大臣藤原道長枇杷第、日本略

百鍊鈔、累朝寶器、日本略、十一月七日戊午、旬宴徹樂、

十二月五日乙酉、雷、十五日乙未、大雷、是歲

冬燠

日本紀略

七年庚戌春正月十六日丙寅以皇子敦良

為親王二十一日辛未大風日本紀略二十八日

戊寅准大臣藤原伊周薨日本紀略歷代皇

書、物語、大鏡、裏、二月二十七日丁未造六條

院左經記長閏月九日己未以明年值三合

厄持附祈年穀使奉神寶東遊舞于伊勢以

下十二社日本紀略三月十八日丁酉御紫宸殿

使百餘僧慶讚佛像法華經十千部祈福禳

災日本紀略百餘僧據紀略秋七月六日癸未大雨

洪水八月六日壬子祈晴丹生貴布禰十六

日壬戌地震二十三日己巳卜霖九月二十

一日丙申地震冬十月十日乙卯奉幣二十

一社日本紀略十一月七日壬午為平親王薨公卿

補任大鏡裏二十八日癸卯一條院成自批

把第徙御焉日本紀略百鍊

八年辛亥春正月五日己卯雷日本紀略夏五月

二十一日甲午慶讚大藏經於紫宸殿百鍊為

二十一日日本紀略二十一日乙未弗豫二十

八日辛丑大赦天下六月十一日癸丑奉金

銀幣神寶于大神宮日本紀略十三日乙卯天皇

讓位於皇太子日本紀略上尊號曰

太上天皇皇代記十一代皇代要記薙髮日本紀略百

法名精進覺百鍊鈔二十一日甲子百鍊鈔

十一崩于東條院中殿年三十三日本紀略

皇代遺詔停山陵國忌及素服舉哀日本紀略

火葬于北山長坂野日本紀略作巖陰長

坂稱一條院寬仁四年藏御骨于圓融帝陵

側左經帝慈仁為心常憫民庶寒夜嘗脫御

衣上東門院異而問之帝曰方今天寒天下

窮民其有不堪者朕豈忍獨重襲哉古事談

談好學崇文詞藻過人兼妙絲竹藤原齊信

語人曰我嘗有所汲引將私奏請適聞玉音

曰凡事須要反淳素我內甚愧終不能請而

止時藤原道長日獻御膳自聞此言不復進

御續往帝臨御日久一時人才輩出續往生

正統正統自謂朕之得人勝於延喜天曆之世訓

正統然遭道長專權政不由己意雖惡之

力不能制焉古事談事素非內書外書不詳

謂人曰外書內書及代御妹委請西園寺

其後崇文院樂師入兼收錄於御所

其後其末不其甚也

其土東門刻無而問之帝曰古今天下

其後其末不其甚也

大日本史卷之三十九終

大日本史卷之三十九

本紀第三十九

權中納言從三位源光圀 修

男權中納言從三位綱條 校

玄孫權中納言從三位治保重 校

三條天皇

三條天皇諱居貞冷泉帝第二子也母贈皇

太后藤原氏日本紀略大鏡貞元元年正月

三日庚午生于外祖大納言兼家東三條第

帝王編年記皇代記東三條第據歷代天元

元年十一月為親王日本紀略大鏡裏永觀

元年八月始讀書日本紀略大鏡裏寬和二年六月

一條帝踐阼七月冠于攝政兼家南院第是

日立為皇太子日本紀略皇代略紀皇年代

朔加元服與諸寬弘八年六月一條帝弗豫

召入禁中日本紀略十三日乙卯皇太子受

禪於一條院立一條帝第二子敦成親王為

皇太子日本紀略百鍊左大臣藤原道長右

大臣藤原顯光內大臣兼左近衛大將藤原

公季大納言兼右近衛大將藤原實資並如

故以顯光兼皇太子傳公卿補任是夜天皇還御

東三條第日本紀略十八日庚申尊一條帝曰太

上天皇皇代略紀皇十九日辛酉上皇落髮

日本紀略皇二十一日甲子法皇崩日本紀略榮華

物語大鏡裏書秋七月八日己卯葬一條天皇八月

十一日壬子夜自東三條第徙御禁中日本紀略

小右二十三日甲子詔左大臣藤原道長知

太政官文書日本紀略小右記公卿補任百

如故帝王編年記曰是日為關白而尚待

按諸書無道長為關白之文故不取以尚待

藤原妍子及藤原娥子為女御日本紀略小

記冬十月五日甲辰以皇子敦明敦儀敦平

師明為親王日本紀略十月乙卯天皇即

位於林極殿時年三十六日本紀略大鏡

是日日本紀略大鏡皇崩日本紀略大鏡五月

四日祭百京師火日本紀略大鏡乙酉葬冷泉天皇

二十七日丙申除服御本殿十二月十六日

乙卯始聽政日本紀略二十七日丙寅詔追尊所

生女御藤原氏為皇太后置國忌列山陵日本

右紀略小

長和元年壬子春正月以諒闇罷諸節會日本

略紀二月十四日壬子尊皇太后曰太皇太后

中宮曰皇太后立女御藤原妍子為中宮日本

代紀略一夏四月二十七日甲子立女御藤原

娥子為皇后日本紀略小右記一代要記秋

七月四日庚午祈雨丹生貴布禰日本紀略十二

日戊寅天皇患瘧使僧讀經修法禱之小右記

二十六日壬辰疾瘳八月丙申朔日有食之

日本紀略冬閏十月二十七日辛卯御禊日本

紀略一代要紀十一月甲午朔日南至公卿表

賀藏日本紀略醍醐報恩院所十日癸卯天皇

始御紫宸殿日本紀略二十一日乙卯大嘗日本紀略

一代要記二十五日戊午詔曰古明聖之世玉燭

聿調金鏡惟潔濠梁波暖及春仁於負水之

鱗河漢雲晴守秋信於隨陽之翅故二耀合

璧五緯連珠德動乾心丘皇之風不墜運當

章首漢武之令長行朕以眇身忝膺寶命涉

道日猶淺臨淵氷更危垂衣之化未被荒服

之民澆俗之弊何反淳風之日迺者有司奏

言今年十一月朔旦冬至得天之紀終而復

始誠是延祚之祥也自顧菲虛寧會休徵嘉

瑞不虛呈必有所應顧非宗祧降祉福輔

佐兼親賢之所致乎思與萬姓共此一陽可

赦天下、但常赦所不免、不在赦限、敘爵賜物、

一準舊典、庶施景福於地方之內、答靈貺於

天度之端、醍醐報恩院所藏古記十二月四日丁卯、卜

定當子內親王為齋宮、十九日壬午、發大神

寶使、日本紀略百二十五日戊子、改元、日本紀略百

二年癸丑、春正月、以贈皇太后忌月、元會及

白馬節、不御殿、日本紀略徹樂、年中廢踏歌節、年

行事、小十六日戊申、東三條院火、日本紀略

政記、百鍊鈔、右二月七日己巳、天皇與侍臣射、法

寺攝政記三年七月己丑、盜三十許人入、故

肉、大臣藤原伊周第掠物、使檢非違使索捕

之、法成寺攝政記三月廿一日壬寅、射禮、十四日乙

巳、賭射、日本紀略以國忌、故延及之、歲以為

常、小右行、事年二十四日乙卯、雪、京師大寒、日本

紀略法成寺攝政記二十九日庚申、雷雨雹、日本紀略

天如梅棹、夏六月二十日戊子、昭平親王

薨、日本紀略秋七月二十四日甲寅、天鳴地震、八

月五日庚子、祈晴丹生貴布禰、小右八日丁

卯地大震

日本紀略

十日己巳又震

小右九

身十六日己巳行幸左大臣藤原道長上東

閃第

日本紀略

觀競馬

百鍊

二十五日甲

寅地震

小右

冬十月己未朔發大神寶使二

十三日辛巳八十島祭

日本紀略

十一月二十八

日丙辰謁石清水宮

日本紀略

丁巳晦還宮

采女町火延及内膳司十二月戊午朔日有

食之

日本紀略

行幸賀茂社

日本紀略

二十日癸未天皇患耳目疾使僧修法

禱之

百鍊

十一月十五日酉

三年甲寅春正月二十七日甲寅有彗星

日本紀略

出天船北卷舌南

小右

二月九日

乙丑夜禁中火天皇及中宮東宮避之太政

官朝所二十日丙子從御松平曹洞

日本紀略

三月十二日丙酉以弓場殿罹災停賭射

小右

是日内藏寮掃部寮火

日本紀略

四月九日甲子

代寶器藥物多亡

小右

夏四月九日甲子

從拍松下曹司御左大臣藤原道長枇杷第

日本紀略 右記百鍊鈔 觀市 丙寅地震日本紀略 五月

六月辛丑行幸上東門第觀競馬騎射日本紀略

小右記 二十四日酉定造宮諸司符諸國

司嚴示賞罰限以明年三月竣功按榮華

徒松下曹司後三日敕修理大夫藤原通任

木平頭藤原周賴造紫宸清涼殿其餘命

之諸國司始自今年賀茂祭期至明年四月

月畢功及期竣事者有賞不則奪官停任六

月天寒人襲綿衣小右記 秋祭月七日庚申奉

幣二十三日社二十一日甲戌省誠太風壞廬

舍日本紀略 冬十一月十五日丁酉御紫宸殿觀

馬小右記 二十四日丙午雷大風日本紀略 十二月

十一日癸亥熒惑犯三公小右記 十七日己巳

華山院火日本紀略 小右記 鈔

四年乙卯夏四月二十日己巳地震日本紀略 五

月庚辰朔修七佛藥師法禱不豫日本紀略

九日戊子修四角四界祭小右記 十五日甲午

修仁王會禳疫日本紀略 二十六日乙巳詔

曰朕旬日以來霧露相侵枕席無聊仰護持

於三寶威神之力猶遲訪救療於十全越人

之術未驗、矧時疫流行、間致夭折、哀襟不豫、雖責眇身於往圖、人俗宜濟、欲導黔首於壽域、刑罰者理亂之轡策也、雖不可空緩德化者、興平之津梁也、猶不可暫忘、宜施凱風之仁、將期翌日之瘳、可大赦天下、常赦所不免者、咸赦除之、惠澤攸霑、不隔遐邇、陽光攸及、無別尊卑、庶添恩波於四海之中、以禳瘴氣於一天之下、二十八日丁未、地震、小右記六月己酉朔、日有食之、日本紀略自三月至是月、

天下大疫、

日本紀略

死者盈道路、建疫神祠於紙

屋川西、號花園今宮、奉神寶幣馬、修御靈會、

小右記二十三日辛未、修仁王會、閏月十七日

乙未、使二百僧轉讀仁王經於大極殿三日、

秋七月、以不豫、停相撲節、

日本紀略

八月九

日丙戌、大風、殷富門倒、

日本紀略

十日丁亥、以疫

釋奠罷宴、十三日庚寅、敕今月以後、諸衛官

人、闕怠直衛、三日以上、嚴加督察、解其見任、

九月七日甲寅、盜入西殿、十四日辛酉、遣權

中納言藤原懷平於伊勢源經房於石清水

藤原行成於賀茂藤原賴宗於松尾藤原教

通於大原野並奉幣馬以禱不豫十七日甲

子視官奏小右二十日丁卯宮成徙御焉日本

紀略小右冬十月二十一日戊戌進造宮諸

司位但修理職木工寮以稽緩過期不錄二

十七日甲辰奉幣春日社禱不豫日本紀略

敕左大臣藤原道長行京官除目於直廬儀

準攝政日本紀略內大臣藤原公季罷左

近衛大將權大納言藤原賴通兼左近衛大

將公卿補任十一月六日壬子地大震十日丙辰

有虹見太政官廳前日本紀略十七日癸亥夜禁

中火天皇避之松下曹司十九日乙丑徙御

批杷第日本紀略十二月八日甲申歲星

經天小右十六日壬辰小鳥羣飛蔽天日本紀略

二十七日癸卯省試小右

五年丙辰春正月二十九日甲戌天皇讓位

於皇太子立皇孫敦明親王為皇太子以左

大臣藤原道長攝政日本紀略帝在位頗

惡道長專權常慮為其所忌意不自安嘗觀

相撲默禱太神宮寶祚永安則左得勝矣既

而左勝帝悅小右後病失明小右按小右記大鏡或為

冷泉院所崇或為藤原元方或為僧賀靜朝

會少臨御道長數諷去位帝不懌小右至是

欲親詣名寺以禱病遂決意脫屣大鏡五月上

太上天皇尊號日本紀略右仍居枇杷第

後徙三條院日本紀略五月登紫宸山修七

壇法七日日本紀略右十二月幸廣隆寺

駐蹕九日寬仁元年四月薙髮日本紀略法

名金剛淨皇胤紹運錄○皇平五月九日丙

午法皇崩于三條院年四十二日本紀略榮

鏡裏書為遺詔停素服舉哀日本紀略火葬于石

陰榮華物語○日本紀略藏御骨於北山皇

編年記稱三條院

大日本史卷之三十九終

大日本史 卷三十九 本系

大臣奉告卷之二十九 以發

...

...

...

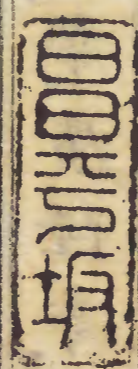
...

...

...

...

...



慶應

